2008年6月1日発行　早 蕨　第422号（昭和62年2月21日第三種郵便物認可）

さわらび
ホームページ　http://www.sawarabi.or.jp

みんなの力でみんなの幸せを

sawarabi さわらび

6 June 2008 vol.422

医学講話▸ 自然回帰と現代科学の融合

ジュゲム施設長
東京大学元助教授　金井 芳之

特　集▸ 認知症の皆さんの幸せのために

医学講話

自然回帰と現代科学の融合

ジュゲム施設長
東京大学元助教授
日本リウマチ学会
評議員・指導医
金井 芳之

前回「アロマテラピー（AT）の本格医療への径」という医学講話を書かせて頂いた。ATという言葉は現在癒しとかヒーリングと言う意味で世間一般に乱用されている。その言葉を聞いただけで漫然と香りとかオイルマッサージがイメージされ、代替療法とみなされてしまう。しかしATの発祥の地ヨーロッパでは本格療法として処方されている。ATと言う言葉は約八十年前にフランスの化学者であったモウリス・ガットフォセによって命名された。その治療理念は多くの化学物質が混在しているアロマオイル（AO）（詳細は後述）の中の特定成分に期待するものではなく、全体成分の総合作用を期待したものだと説明されている。

四千年もの昔、エジプトや中国では芳香植物（ハーブ）を焚いて精神の安定に供した。エジプト人は初歩的な蒸溜装置を考案し、シダーオイルの抽出を行った。エジプトではシダーウッド、クローブ、シナモン、ナツメグ、ミルラなどのハーブ由来のオイルが死体の防腐保存に使われていた。ちなみにミイラという名前はミルラが語源である。古代エジプトの有名なツタンカーメン王の墓からはオイルで保存されたフランキンセンスの詰まったポットが出土され、その香りは数千年を隔てても尚衰えてはいなかった。ピラミッドの建設に従事した工夫や、富裕層の者は入浴後のマッサージにフランキンセンスなどのハーブの粗抽出液と植物性のオイル状の液体を混ぜて使ったらしい。ギリシャ人で医学の父と呼ばれるヒポクラテスも芳香植物を燻蒸して治療に用いていたと言う。ギリシャの芳香商、Megallusは芳香のことをMegaleionと命名し、ミルラをオイル状のもので希釈して、炎症部位や傷口の治療に使用した。ローマ帝王は芳香療法の情報をギリシャやエジプトから収集した。当時の書籍に五〇〇種類ものハーブやAOに関連した植物の特性が収載されている。この時期、芳香の抽出に粗末な蒸溜法が使われていたが、そのため、最終段階のオイルまで到達できなかったので、芳香水に留まっていた。

AOが抽出出来るようになったのは十一世紀で、蒸溜装置に付ける冷却パイプが発明されたためである。この時点でAOの純度が高まり、効果も解るようになってきた。十二世紀にはドイツの大修道院長ヒルデガード（女性）がラベンダーを蒸溜して、医療に応用した。十三世紀には大量のAOの生産が可能になった。十四世紀にはペスト（黒死病）が流行し、数百万人が死亡した。その時香草（ハーブ）が防御のために大量に使われた。AOを扱っていた香料商は疫病から免れたと言う。十五世紀にはフランキンセンス、ジュニパー、セージそしてローズマリーのオイルが精製された。精製されたAOは現在エッセンシャルオイル（精油）（EO）と言われているが、その「エッセンシャル」の命名者は医者で錬金術師でもあったパラセルクスという人で、EOを広く医療に応用した。十六世紀には“apothecary”つまり薬屋さんでもEOが手に入るようになった。十九世紀にはその成分の化学的分析・分離が行われた。

一九二八年に記念すべき歴史的事件?が勃発した。フランスの化学者でEOを医療の場で活用させようと強い情熱に燃えていた前述のモウリス・ガットフォセという人が、実験中に手に大やけどを負った。たまたまそ

の場にあった大量のラベンダーオイルの入った容器に負傷した手を浸したところ、その効あって、火傷は短期間で瘢痕も残さずに治癒してしまった。後に、EOは個々の成分に分けて使うのではなく、自然のオイルを使うのが効果的であると書いた論文の中で、初めてaromatherapy、つまりアロマテラピー（AT）という言葉が用いられたのである。一九三七年には、彼は「Aromathérapie」という書籍を出版した。これが今日継承されているATである。

アロマテラピー（AT）を本格医療に昇格させる為にはこれから越えなければ成らない幾つかの関門がある。ATは本来複数の化学組成の異なる薬理作用を持った集合体が、経皮的あるいは経気道的に生体に作用して、精神的、機能的生体回復を期待する療法である。従って、今まで知られているATの臨床効果は総合的なものであって、私には「隔靴掻痒」の感がある。従来の芳香療法として、リラクゼーションに留まるこ

との有用性は高く評価するものの、それと平衡して、個々のEO成分を単離、その薬理的作用を、細胞培養やヌード（無毛）マウスの経皮的実験系を使って徹底解析をすれば、EOの個々の成分が臨床薬剤の一角を占めるようになるかも知れない。なかには高齢社会が直面しているアルツハイマー病のような痴呆病態の予防と治療に効果的な天然化合物の発見も期待される。個々の成分の生体への薬理作用の解析は、従来の組成の異なる化学物質の集合体としての精油効果を扱うATと趣旨を異にするが、新しい科学・医療の進展には避けて通れない行程であり、新規医薬品の発見への道でもある。

かつて人類が細菌感染と闘っている過程でペニシリンやストレプトマイシンなど優れた抗菌力を持った抗生物質を発見した。抗生物質はヒトが合成したものではなく、元はカビや放線菌という天然に存在する微生物が産生したものである。これらの抗菌作用を持った抗生物質はもとも

と自然界で生存するための自己防御として微生物が自らのために作ったものである。同じことが植物が産生するテルペン化合物をはじめ多くの芳香炭化水素を主体とするAOにもあてはまり、これらの物質も植物本体がウイルスや細菌から防御する知恵として作ったものと考えられる。現在、その抗生物質が医療現場で活用されていることを考えると、同様のことがAOにもあてはまると思われる。想像しただけでも多くの芳香炭化水素誘導体の出現が可能である。

さて、本文で幾つか馴染みの薄い用語が出てきたと思う。私はこの道の門外漢ではあるが、勇気を奮って簡単に用語の整理をしてみた。AOの源泉は料理の香り付けに用いられるハーブが主体で、葉っぱはもとより花や根っこ、樹皮からしみでる樹脂も含まれる。それらを乾燥せずに、主に水蒸気蒸溜法が使われるが、その時、水の表層に極く微量に分離されるオイル［低比重］がAOである。

漢方薬の多くはこれらのハーブを乾燥させた後、粉末にしたもの、湯水で煎じた抽出液などを指す。一方生薬とは動植物や、鉱物の全体または一部をそのまま、あるいは乾燥したりして不要の部分を除去するなど簡単な加工を施したもの、または抽出したものを指す。従って生薬と漢方薬との区別は難しい。また全てのハーブからAOがとれるわけではない。

最後にATは芳香療法と訳されているが、芳香と呼ばれるにふさわしいAOはそれほど多くはない。薬効の顕著なものは、えてして香りは良くない。この点で芳香療法という訳は必ずしも的確ではない。芳香と薬効を融和させた経皮嗅覚療法transdermo-orfacto- therapy（TDOT）（ティードット療法）という名称を提唱したい。その意味でテルペン系以外にフラボン系やアルカロイドも探索の対象となる。

h
ŏ **参考文献**
Maria Lis-Balchin (2006) Aromatherapy Science, A guide for healthcare professionals,Pharmaceutical Press , London & Chicago

長寿医学研究所

研究通信

news of study

Vol. 6

福祉村病院　長寿医学研究所　副所長

赤津　裕康

【共同研究紹介】

今回は新たに御加勢いただく先生とその先生が発見された物質に絡んで、これから始まる大きなテーマについてご紹介いたします。

去る五月一日より、前聖マリアンナ医科大難病治療研究センター副センター長、現同大客員教授でいらっしゃる中島利博博士が研究員としてご赴任されました。中島先生は関節リウマチをご専門とされ、米国に御留学中に世界のトップジャーナルに筆頭著者として研究をご発表になられ、帰国後はシノビオリンという物質を発見されました。この因子は関節リウマチの滑膜細胞の異常増殖制御に深く関与しており、世界的に注目されています。その理由は、滑膜細胞にとどまらず細胞の癌化に深く関与するp53に対してのユビキチン―プロテオソーム系でのメンテナンスの主役を演じているためです。現在、中島先生はその発見者として遺伝子改変動物を作成され、その本態の解明と関節リウマチの治療開発、癌医療へのシノビオリン応用に全力を投じておられ、文部科学省研究班の主任研究者としても活躍されています。

今回は難病治療研究センター長の西岡先生と本院先端医療副院長の岡田先生とのご縁から始まった話であったのですが、私としては大変幸運でありました。それはシノビオリンが我々の研究に深く関係するのではないかと思ったからです。

シノビオリンはp53の品質管理を行っているわけですが、それは癌化は勿論のこと、細胞回転、増殖制御に当然関係してきます。神経細胞は発生期を終えると一部の細胞を除いて細胞増殖は行われなくなるという、体内の細胞の中でも非常に特異な細胞です。また神経変性疾患は封入体というものを形成する場合が多いのですが、大体これはユビキチン―プロテオソーム系の破綻が絡んできます。

我々は現在、必ずやこのシノビオリンが神経細胞の発生、分化、細胞死にも関係しているとにらんでいます。すでにパーキンソン病においてはその関連性が取りざたされているとの事なので、アルツハイマー病、その他の神経変性疾患や神経発生においてシノビオリンの関与を明らかにしていけると考えています。

中島先生は今後、少なくとも一年間は週一回こちらにお越しいただき、我々の指導に携わっていただけます。

福祉村合同防災訓練

～福祉村内の連携について～

五月十六日（金）に豊橋南消防署の方の立会いの下、福祉村において合同防災訓練が行なわれました。今回は特別養護老人ホーム第二さわらび荘にて夜間に火災が発生したと想定して訓練を行ない、各施設や病院及びレジデンスなかま（職員宿舎）から応援職員が駆けつけて、施設入所者の避難誘導にあたりました。また避難訓練終了後には、各施設・病院の新入職員を中心に消火器を用いた初期消火訓練も行ないました。常日頃から各施設間での連携を図り、訓練を行なうことで防災意識を高めていきたいと思います。

さわらび大学レポート

◉2008年5月8日講義

「心のケア―うつ病」

長寿医学研究所　所長　堀　映

●うつ病ってなに?

一日中ゆううつな気分が二週間以上続き、日常生活に支障をきたす。不眠や種々の身体症状を生じる。

●どうしてうつ病になる?

女性が男性より二倍多い。妊娠や出産が機になることがある。几帳面、自分なりの秩序にこだわる性格のひとがなりやすい。ずんぐり体型の人に多いともいう。生活史上の大きな変化（ストレス、あるいは好ましいできごと、例えば昇進、新築など）が契機となることも、特にきっかけがなくても。初老期にもでやすい。身体疾患（脳の病気もふくめて）があるとなりやすい。例えばアルツハイマー病患者では三―五割にみられる。

●うつ病ではどんなになる?

朝方悪く夕方比較的楽になる。抑うつ気分、思考抑制、欲動の減退、希死念慮、睡眠障害、自律神経系の身体症状。

●うつ病になったらどうする?

うつ病は病気であることを認識し、そして治る病気であることを信じよう。気晴らしをするのは意味がなく、心身にエネルギーを蓄えるために思い切ってただ休もう。うつ病の人に対して慰めや励ましは禁物。却って病状を悪化させる。退職、婚約解消などの、大切な決定は病気が落ち着くまで先送りに。死にたい気分のあるときは必ず専門の医師にかからせる。うつ病の薬は、服用してから効き始めるまで日数を要すること、うつ病をよくし、かつよくなった状態を維持させるものであることを知り、よくなってもすぐにやめないよう。自殺傾向は、むしろうつ病の回復期に多いことを知っておこう。

●うつ病にならないために、あるいは早くその兆しを見つけるためには?

職場、家庭でいつも心の交流を。

◉2008年5月22日講義

「ベットサイドのリハビリテーション」

福祉村病院　リハビリテーション部長
榊原利夫

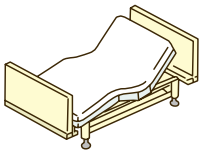
リハビリテーションとは本来、まわりの家族や現場スタッフで協力し、その人の人間らしさを取り戻すことであり、PT、OT、STがリハビリ室で行うことはその中の訓練の一部分であるといえる。

大きな機材を使う訓練以外は、リハビリ室以外のどこでもできるし、ベッドサイドだからこれをやるという訓練があるわけではない。その人の生活環境（病院・施設・住宅）や運動機能、能力によって何ができるのか、必要かを見極め、訓練の仕方を考えるべきである。

※運動能力の把握

背臥位→**寝返り**→側臥位→**起座**→座位→**立ち上がり**→立位→**歩行**

※**太字**は動きのある動作
■は姿勢



運動機能を不可能にする原因には、筋力がない・柔軟性がない・バランスが悪いの三つがあげられる。筋力がない人には筋力をつける訓練、柔軟性がない人には可動域を広げる訓練など、その人がどこまで自力でできるのか、できないところはなぜできないのか原因を考え、その人にあった訓練をする。

また、障害学はアプローチの仕方により次の三つの段階にわけられる。

●機能障害

筋力低下、拘縮等の身体に即した障害（例…手の麻痺）

●能力障害

歩けない、座れない、着替えられない等日常生活に必要な動作の障害（例…字が書けない）

●社会的不利

住宅の住みづらさや経済的な障害（例…仕事ができない）

機能障害には治療的アプローチ、能力障害には代償的アプローチ、社会的不利にはケースワーク的アプローチが必要となる。

◆明日香の新体系移行

障害福祉サービス事業所 明日香へ

明日香では今年の四月から自立支援法による新体系移行を行いました。新体系の事業としては、就労移行支援事業、就労継続支援B型事業、生活介護事業の三つの事業でサービスを提供していくことになります。

新体系になって変わることとは？

今まで明日香では、知的障害者授産施設としてサービスを提供してきました。しかし、その中には将来就職を目指している方もいれば、年を取って少しずつ介護が必要になってきた方など、様々な方が一緒に活動をしてきました。そこで、今回の移行では三つの事業でサービスを提供することにより、一人ひとりのニーズに合わせてサービスを選択することができるようになりました。

それぞれの事業のポイントは以下の通りです。

◆就労移行支援事業

一般企業への就職を希望している方が対象です。施設内での作業訓練や地域の企業での実習訓練を行い、就職するための知識や技術を身に付けて行きます。また、ハローワークでの就職活動の支援も実施していきます。

◆就労継続支援B型事業

働きたいが一般企業への就労ができなかった方や、年齢等により一般企業への就職が困難な方が対象です。明日香内での作業を中心に行い、より多くの工賃をもらえるよう支援して行きます。

◆生活介護事業

日常生活を送る上で介護や支援が必要な方が対象です。日常生活の自立と、明日香では元々は授産施設だったという特性を活かし、生産活動を行います。

明日香内の改装

今回の新体系移行に伴い、障害者自立支援基盤整備事業による補助金で作業室の壁や床の張替え、シャワーユニットの設置をしたり、就労訓練設備等整備事業による補助金で、クリーニング作業で使う乾燥機や作業室内のエアコン、実習先への送迎車を購入することができ、より良い環境の中で作業をすることができるようになりました。

●一般企業での実習の様子

新体系移行による課題

新体系への移行による課題もあります。就労移行支援事業では二年間という期間が設けられているため、就職できなかった場合や就職してもその後退職してしまった場合の受け入れ先をどうするのかという課題が出てきています。このような課題を解決するのは簡単ではありませんが、課題解決に向けて取り組んでいきたいと思います。

▶利用者全員と個別面談を実施し、個々のニーズ把握に努めています。

◀就労訓練設備等整備事業による補助金で、実習先への送迎車を頂きました。

◆さわらび会の取り組み

将来を担う子ども達のために

さわらび会には、年間を通じ本当に多くの子どもさんが、交流やボランテイア活動のために訪れてくださいます。このような活動は、将来を担う子どもたちにとってとても大切であると私たちは考えています。誰かの助けが必要となったお年寄りや障がいを背負っても必死に自立をめざしがんばっている人の姿に接することで、人の役に立つことのできる人材育成となればと思います。

特に、その一環として一九九三年からは、障がい者の理解を深めていただくために「福祉村キャラバン隊」を編成し活動を始めました。福祉村キャラバン隊は、福祉村に来ていただいたみなさんを受け入れるだけではなく、こちらから市内の小中学校に直接出向き、普段の私たちの活動や生活を紹介したり体験していただいたりしています。今までに延べ一二、九二二人のみなさんと交流を深めてきました。

また、夏休みには、「夏休み親子福祉体験講座」を開催しています。親子で福祉村の各施設に入居しているみなさんと交流していただくことで、家庭において福祉を共通の話題として提供できればと思い開催しています。特に、事故で身体に重度の障がいを受け、珠藻荘に入居しその後、珠藻荘の副施設長となった田中副施設長の話は、参加したみなさんに多くの感銘を与えています。

祖父の生きる姿から学んだ生きるという事

第二さわらび荘に入居されていた利用者さんのご家族との話の中で、子どもさんのことが話題になり、職員がとても良いお話なので是非さわらび誌でご紹介をさせて頂きたいとお願いをしました。内容は、子どもさんが生きる方向に悩んだ中学時代、祖父の生きる姿を通じ、生きるという事を真剣に考え、祖父の介護を通じ、自分自身を見つめ直すきっかけとなったことをまとめたもので、クラスの仲間からも推薦をされ、弁論大会で発表をされたとのことです。

生きるという事

国府高校弁論大会　優良賞

泉　喬太

生きるとは何なのだろう。そんなことを思うようになったのは、幼い頃から僕に、色々な事を教えてくれ、まるで歩く辞典のような人だった祖父の口から、当時、中学生だった僕に祖父がぽつんと「この頃いろんな事をどんどん忘れてゆくんだよ。とても淋しいよ。」と言われた時だった。

動揺した僕は「大丈夫だよ、代わりに俺が覚えてやるから、忘れた分まで覚えておくから。」と答えた覚えがある。そして今ではもう僕の名前を思い出せなくなってしまった。

（中略）

僕たち家族は、本当にたくさんの事を、祖父から学んでいる。元気だった頃から、話もあまりできなくなった今でも、変わることなく、ただ教えてくれる内容が変わっただけで、多くのことを学ばされている。そして、変わっていく祖父の姿をとおし、祖父と僕たち家族は、苦しいほど何度も葛藤した。

（中略）

生きるとは一体何なのだろう。今は、はっきりとした答えも考えも、僕の中には見つからないが、僕が祖父の事を、忘れずに覚えているかのように、生きることは、誰かの記憶の中に自分を残す事かもしれない。ひょっとしたら、ずっと先で、その答えが見つかる日が来るかも知れない。その時が来たら、高校生の時、生きるという事を、マジに考えた事を思い出すだろう。

祖父の姿を通して…

泉さんのおじい様は、第二さわらび荘に入居されていましたが、誠に残念ではございますが、この四月にご逝去されました。ご冥福をお祈りいたします。

◉特集

認知症の皆さんの幸せのために

～さわらび会の取り組み～

認知症グループホームとは

認知症グループホームは地域密着型居宅サービスの一つとして、介護度が中度、軽度の認知症の方に対して、共同生活介護サービスを提供することをその目的としています。

さわらび会は「みんなの力でみんなの幸せを」という運営方針のもと、特別養護老人ホームさわらび荘に併設して、認知症グループホームはりはらを介護保険法施行前の一九九八年十一月に着手しました。

認知症グループホームでは、明るく家庭的な雰囲気の中で、利用者の意思や人格を尊重しながら、地域や家庭との結びつきを重視した運営が行われます。

利用者の個別援助計画に基づき、可能な限り、居宅における生活への復帰を念願に置き、専門の職員が入浴・排泄・食事などの介護、相談及び援助、社会生活上の便宜を供与するなどのサービスを提供します。

さわらび会では、平成二〇年度にこの認知症グループホームを発展的に拡大し、二ユニット一八名として交通至便で閑静な住宅地（豊橋市平川本町一丁目）に新しく整備開設する予定です。

認知症グループホームの課題

認知症グループホームは介護保険法施行後、雨後の筍のように乱立しました。

生活支援型方法論の実現を念頭に頑張っている施設もあれば、設備人員等の運営基準の緩さから効率的な運営を目指すあまり、劣悪な介護状況で運営され、事件として新聞報道になるところも多々あり、粗製乱造の感が否めませんでした。

その後、設備人員等の運営基準が変更されましたが、運営法人は今までの福祉を担ってきた社会福祉法人や医療法人だけでなく、ＮＰＯ法人や、株式会社、有限会社などといった介護経験等のノウハウや運営母体を持たないなど、どこでも運営することが出来る状況でした。

次に、開所後十年が経つところが多くなってきたことで、利用者の高齢化と認知症の病状の進行に伴い重度化が進みました。認知症の周辺症状いわゆる行為障害も進行しますし、身体状況、日常生活動作（ＡＤＬ）も低下してきました。開所当時は要介護度一～二だった人が、四～五になっていることも増えてきました。つまり、認知症グループホームでも車椅子使用者など全介助の方が増えてきていると言えます。元々目指してきた、食事を一緒に料理したり、掃除したりする生活支援型のケアの実現も困難となってきています。

さわらび会の認知症ケアの取り組み

一九七〇年頃よりはじまった、先駆的な山本病院での痴呆（当時）のリハビリと支援の方法。それを引き継いだ福祉村病院。認知症専門病院のパイオニアとして全国津々浦々から入院患者さんが殺到されました。

また、そのノウハウを受けたさわらび荘においては、十五年間愛知県から委託を受け「痴呆性老人介護技術研修」（当時）を実施したり、認知症グループホームに義務付けられた愛知県の「痴呆介護実務者研修基礎及び専門課程」（当時）の指導者

として職員を派遣したり、「認知症を知り地域をつくる十ヵ年キャンペーン」それによる「認知症サポーター養成講座」の講師として職員を派遣するなど、県内の認知症介護の質の向上に協力してきました。それらは現在に至っています。

さわらび会の認知症ケアの考え方

認知症のケアは特別なケアではありません。そういうと語弊があるかもしれませんが、適切なケア方法の延長線上に「認知症のケア」があるのだと思っております。

しかし、特別なケアではないという意味は、認知症の原因や主症状を知らないでも良い、という意味ではありません。適切に対応するためには、専門的な知識や技術を身につけることは「認知症ケア」に限らず当たり前の事です。寄り添うケアが重要視されていますが、何もせずに寄り添っているだけでは介護放棄に他なりません。

したがいまして、安全や生命を守るためにも医学的知識の部分も含めて「認知症」というものを理解する必要があるのです。その上で、人が人に対する支援のあり方として「当たり前の事」を考えていくことが大切になってきます。

つまり、いかに目の前にいる利用者の皆さんの訴えや表情から、その方々の気持ちを察して考えていけるか、五感を働かせた「想像力」と「創造力」が発揮できるかが重要になってきます。

私たちは医療と福祉の両面からこのような力を養うべく、職員研修にも力をいれています。そして、一人ひとりをよく観察し、一人ひとりの声なき声を聞く、そして「その人の当たり前の生活を当たり前に提供」していくことの重要性を説いています。

その考え方は、私どもさわらび会の山本理事長が一九七三年から提唱する認知症介護の三原則に全てのノウハウが集約されていると思っています。

一・いつも温かい愛情と笑顔で
二・決して叱らず制止せず
三・今、できることをしていただく

そして、認知症の方はすぐ忘れてしまうかもしれませんが、その一瞬一瞬はその人なりに一生懸命生きていらっしゃいます。この三原則が全ての方に提供出来るようにお会いする、接することの出来る刹那刹那を大切にしていきたいと思います。

さわらび会のバックアップ体制

さわらび会が運営する認知症グループホームではこれまでに培ってきた先駆的な医療と福祉の連携による万全なバックアップ体制を敷いています。

医療面では認知症の方が入院できる療養病床の福祉村病院（四八七床）、長寿医学研究所（認知症の研究）、福祉面では、特別養護老人ホームさわらび荘（従来型八〇床）、グループホームの特徴である生活支援型ケアを継続できる特別養護老人ホーム第二さわらび荘（ユニット型一〇四床）等々、利用者の様々な状態によって適切な施設でバックアップできるような体制を整えております。

（編集　長坂・土井）

認知症グループホーム、認知症ケア等に関するお問い合わせ先

- **福祉村病院**
  ☎0532-46-7511
- **さわらび荘**
  ☎0532-54-3501
- **第二さわらび荘**
  ☎0532-37-1209

【ファンのために左近が魅せる】

山本左近

F1 DRIVER SAKON YAMAMOTO

「世界中にF1の魅力を伝えたい」

F1の速さをみんなに伝えたい

ルノーF1チームで世界を飛び回る多忙なスケジュールを縫い、五月最初の週末（3・4日）はベルギーのスパ・フランコルシャンサーキットでワールドシリーズbyルノーのレースにF1デモランとして参加。このイベントで左近選手が見せたものが「F1の速さ」だった。モータースポーツ最高峰としてのF1の魅力を観客に知ってもらえるように全開でサーキットを駆け抜けた。

ワールドシリーズbyルノーはF1への登竜門の一つであるが、全力で走る左近選手の姿は観客だけでなく、F1を目指す若手ドライバーを始めとするレース関係者にも最高の刺激と憧れとなった。

F1の楽しさをみんなに伝えたい

デモランのもう一つの目的は「F1の楽しさ」を伝えることである。スパ・フランコルシャンサーキットは、さすがモータースポーツ発祥の地ヨーロッパのサーキットだけあって左近選手も驚くほどの盛り上がり。小さな子供から年配の方まで、憧れのF1マシンを一目見ようと集まった。ルノーF1チームやマシン、そしてドライバーを身近に感じてもらうため、左近選手は「みんなに楽しんでもらう」走りを披露した。

左近選手の多彩な才能

これまでに走ったF1グランプリで見せた左近選手の走りは、常にF1関係者から高い評価を得てきた。そして、今年はついにトップチームの一員としてマシンの開発やイベントなどに参加することとなり、左近選手の活躍の場がさらに広がった。

忙しいレースの合間に行われるF1関係者のパーティーではDJとしてプロ顔負けのテクニックを披露して話題になり、ついに海外のテレビではその様子が放送され、雑誌にも掲載された

Training & Meeting

ING RENAULT F1 TEAM

Photograph by F1-Live.com

りしている。

サーキットでのタフな速さ、ルノーロードショープログラムでのサービス満点の走り、そして一人の若者としてF1にとどまることのない多彩な才能とその魅力が、左近選手のカリスマ性を生み出している。

世界中のファンのために、左近選手はF1マシンを走らせている。

Relax

◆2008年ルノーロードショーカレンダー

8/16・17
オランダのロッテルダムの公道でのデモ走行

8/30・31
ドイツ　ホッケンハイムサーキット

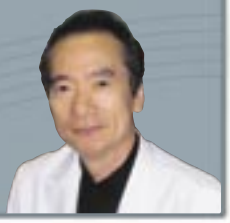
9/20・21
東ヨーロッパ　キエフ

ルノーロードショーで左近選手のドライブするF1マシンを見ることができます。

俳句浪漫

直筆の書で季節を彩る

ジュゲム施設長・東京大学客員研究員
金井 芳之



ゴールデンウィークに都会を離れ、中央線で甲斐へと足を向けた。多摩の丘陵を抜け甲州路に入るや否や、辺りは目映いほどの新緑に覆われ、いつしかわれらを載せた列車は瞬きも出来ないほどの絶景の真只中を突き進んでいた。一方、甲府盆地の遥か彼方の碧空に連綿と聳える南アルプスの稜線には、光沢を放った残雪が恰も逝く春を惜しんでいるのかのように見えた。ふと気がつけば列車はすでに残雪もまばらな八ヶ岳山麓へ指しかかっていた。

さわらび日記

（H20・4・16～5・15）

■福祉村病院・ジュゲム

4月16日 名古屋大学大学院医学研究科老年科で理事長・山本ゆかり専務・武田施設長が講義を行う
17日 橋詰先生によるCPC（理事長出席）
19日 豊橋ライオンズクラブ50周年記念式典に理事長出席
22日 お年寄りを対象とした野依健康教室にて肺炎について山本理事長講話
23日 第二病棟家族会
豊橋みなとライオンズクラブ福祉村例会（ふれあいホール）に理事長出席
24日 第一病棟・さくら通り病棟家族会
さわらび大学「介護の基礎（障害者の介護」珠藻荘小原正敏介護士長
豊橋市社会福祉協議会主催認知症座談会にて伊苅弘之副院長が「認知症について」の講演と助言を行う
5月1日 早蕨編集会議（理事長出席）
2日 ゴールデンウィーク勤務者打ち合せ会に理事長出席
8日 さわらび大学「心のカウンセリング」長寿医学研究所堀映所長
12日 施設長会議（理事長出席）
13日 長寿研セミナー「UAEとの交流・共同研究の経緯と心構えおよび展望」広島大学医学部皮膚科山本昇壮名誉教授
14日 ジュゲム幹部会
ジュゲム家族会
訪問看護ステーション準備委員会
15日 第一病棟・さくら通り病棟家族会
橋詰先生によるCPC（理事長出席）

■さわらび荘

4月16日 愛知県認知症グループホーム連絡協議会役員会（施設長 稲沢市）
愛介連ケアマネ部会（白井 名古屋）
17日 介護認定審査会（施設長 市役所）
包括プログラム作成委員会（浅見 つつじヶ丘）
18日 在宅医療福祉部会（施設長・藤原・浅見 第二さわらび荘）
中消防署査察
21日 地域包括支援センター業務打ち合せ会（松下・本江 市役所）
22日 老人ホーム三河部施設長会（施設長 豊川市）
23日 豊橋市介護保険関係事業者連絡会（施設長・渡辺・白井・浅見 ライフポートとよはし）
25日 愛知県老施協新人研修（小林 名古屋）
26日 豊橋善意銀行感謝の集い（施設長 豊橋市総合体育館）
28日 愛知県認知症グループホーム協議会役員会、総会、講演会（施設長 名古屋）
29日 愛知県認知症グループホーム協議会、全国大会準備委員会（施設長 名古屋）
5月12日 豊老協総会（施設長 王寿園）
13日 介護相談員と訪問施設担当者意見交換会（藤原・村田 市役所）
愛知県老施協施設長会議（施設長 名古屋）
14日 愛介連東三河ブロック研修会（白井・松下・浅見 ライフポートとよはし）
15日 介護給付費審査会（施設長 市役所）
介護認定審査会（施設長 市役所）

■第二さわらび荘・カサ デ ローザ

4月17日 認定審査会（長坂 市役所）
18日 愛老協女性委員会（奈良施設長 名古屋）
22日 老施協各員会委員長・幹事会議（山本施設長 東京）
老人ホーム三河部施設長会役員会（山本施設長、奈良施設長 豊川）
23日 豊橋みなとライオンズクラブ例会
25日 愛老協新人研修（田中 名古屋）
26日 善意銀行感謝の集い（長坂）
永生苑豊橋15周年記念式典（山本施設長）
29日 家族会総会・バイキング食事会

さわらび大学公開講座案内

☆参加費無料でどなたでも受講できます

- ●6月12日㈭　急変時の処置
  講師►福祉村病院 看護部教育委員 看護主任　村井 孝枝
- ●6月26日㈭　感染症予防について
  講師►福祉村病院　院長　小橋　修
- ●7月10日㈭　接遇
  講師►㈱ハーモネット　代表取締役　近藤 敏子
- ●7月24日㈭　認知症の理解
  講師►福祉村病院　副院長　伊苅 弘之

さわらび大学の開催

時　間◉第2・4木曜日、午後3時～4時
会　場◉福祉村病院会議室

尚、都合により日程及び講座が変更となることもございますのでご了承ください。

講義内容へのご意見・ご要望がございましたら、下記までお申し付けください。

◉お問い合わせ・受講申し込み
軽費老人ホーム若菜荘
☎ (0532)48−1138　FAX (0532)48−2365

夏休み親子福祉体験講座 実施決定!!

今年の夏も、福祉村に遊びにきてね!!

後援◎豊橋市・豊橋市教育委員会・豊橋市社会福祉協議会

今年の夏も、福祉村にたくさんの小中学生とそのご父兄ご兄弟にご参加いただく、夏休み親子福祉体験講座が実施されることになりました。

毎回大変ご好評をいただいていますこの講座を通じ、親子で福祉について考えてみませんか。

日 時　平成20年7月26日(土) 午前10時～

場 所　福祉村　各施設(豊橋市野依町字山中)

内 容
- ミニ講座「障がいを乗り越えて」
  障害者支援施設珠藻荘副施設長　田中　力
- 子供福祉講座
- ふれあい体験　　など

お問い合わせ・参加申込

軽費老人ホーム若菜荘
TEL.(0532)48-1138／FAX.(0532)48-2365

5月1日 県社協社会福祉施設委員会（山本施設長　名古屋）
6日 豊楽会演劇会
7日 老施協正副会長・委員長会議（山本施設長　東京）
8日 消防設備点検（～9日）
12日 豊橋市民間老人ホーム協議会施設長会議（山本施設長、奈良施設長　豊橋）
豊橋市介護相談員打ち合せ会（長坂　市役所）
13日 東海福祉専門学校来荘
愛老協施設長会議・総会（山本施設長　名古屋）
14日 県社協高齢者福祉事業連絡部会・正副部会長会議（山本施設長　名古屋）

■珠藻荘
4月21日 愛知県身体障害者療護施設長会議（施設長　名古屋）
家族会役員会
22日 防災機器操作訓練
23日 自治会
家族会
29日 まちづくり出前講座（田中　幸小学校）
30日 自治会役員会
5月14日

■若菜荘
4月22日 誕生会
野依校区健康教室
老人ホーム三河部役員会
施設長会議（施設長　豊川）
24日 老人福祉施設協議会ワーキングチーム（施設長　東京）
喫茶なかよし
ビデオ鑑賞
各階別会議
5月1日 若菜会地域活動日
2日 若菜会役員会
7日 夏休み親子福祉体験担当者会議
8日 若菜会福祉村公園清掃
9日 豊老協施設長会議（施設長　王寿園）
12日 県老協施設長会議
13日 懇談会
14日

■あかね荘
4月19日 調理教室

23日 東海地区福祉協会会議（施設長　名古屋）
24日 主任会議
25日 更生施設部会会議（施設長）
26日 語りべの会
善銀感謝のつどい（中陳　豊橋市総合体育館）
27日 家族会総会・懇親会
5月2日 害虫駆除
12日 主任会議

■明日香
4月16日 防災ボランティアコーディネーター連絡会（林　あいトピア）
21日 個別面談開始（～26日）
23日 手をつなぐ育成会総会にて講演（施設長）
25日 田原福祉専門学校実習受け入れ（5月2日、9日）
29日 家族会総会
5月9日 自治会
14日 介護支援専門員研修（鈴木陽　名古屋　～15日）

■しろがね
4月16日 さなえ会おやつ奉仕
21日 TFM合唱団
25日 田原福祉実習生受入
30日 防火管理者研修（住吉　～5月1日）
5月2日 田原福祉実習生受入
9日 さなえ会おやつ奉仕
12日 TFM合唱団
14日 さなえ会おやつ奉仕

■各施設共通
4月16日 栄養士会議
18日 さわらび会在宅医療福祉部会
22日 さわらび大学運営委員会
緊急連絡網訓練
23日 豊橋みなとライオンズクラブ例会
25日 第二さわらび荘にて開催
ホテルアークリッシュ豊橋新人研修
5月2日 合同防災会議
12日 施設長会議
14日 福祉村キャラバン隊（西郷小学校　いきいきフェスタ企画委員会　松井）
15日

いかり先生の

「お遍路さん」

～四国八十八ヶ所霊場めぐり～

第23回

「アイスクリン」って何？

福祉村病院　副院長
伊苅弘之

第三十一番竹林寺から第三十二番八葉山禅師峰寺まで六キロ、車で二十分、徒歩で二時間。

土佐湾近くの峰山にある禅師峰寺は「峰寺」と呼ばれ親しまれている。峰山の姿は、観音の浄土、天竺補陀洛山のように八葉の蓮台に似ているので、弘法大師が山号を八葉山と名づけたと伝えられる。急な坂道の参道を登り仁王門をくぐる。眼下にビニールハウスが並び、遠くに土佐湾が見渡せる。絶景。

禅師峰寺の本尊は、弘法大師が土佐沖を航行する船の安全を願って刻んだ十一面観音である。海上交通の安全に霊験のある本尊は「船魂観音」と呼ばれ、土佐藩主山内氏も参勤交代の際には参詣したという。

次の札所に行く途中、桂浜に立ち寄った。坂本竜馬の銅像が立ち、海岸には荒々しい波が打ち寄せていた。このあたりの名物のひとつ、アイスクリームの元祖（？）「アイスクリン」の屋台が出ていた。卵と牛乳と砂糖だけで作った素朴な味だ。「懐かしい味だね」と母。「きっと竜馬さんも食べたね」と小三の娘。

第二さわらび荘 家族会報告

四月二九日に第二さわらび荘では家族会総会が行われました。それに先立って家族会の主催でバイキング食事会が行われました。

バイキング食事会は、日頃なかなか食事をご一緒にできないご利用者とご家族との食事を通した交流を目的としたものです。お寿司や刺身、うどん、アイスクリームなど、ご利用者の方々だけでなく、ご家族も一緒に食事を楽しまれました。多くのご家族に参加いただくことができ、ご利用者の方々は笑顔一杯でした。

その後に行われた家族会総会では平成一九年度事業報告、平成二〇年度事業計画等が議決され、滞りなく家族会は終了しました。今後も家族会との行事等をご報告していきたいと思います。

さわらび会後援会 寄附ご芳名

H20・4・15～5・14

伍千円
参萬円
壱萬円
壱萬弐千円
壱萬円
伍千円
伍千円
壱千円
壱萬円
壱萬円
壱萬円
壱萬円
壱萬円
壱萬円
壱萬円
壱萬円
壱萬円
壱萬円
四千円
弐萬円
壱萬円
壱萬円
壱萬円

その他匿名希望多数の方よりご寄附頂きました。

計　**弐拾参萬弐千円**

現在までにご寄附いただきました金額は

八億弐千壱百壱萬四百壱拾円

インド福祉村協会 寄附ご芳名

H20・4・15～5・14

参千伍百円
伍千円
伍萬円
伍千円
伍千円
壱千円
伍千円
参千円
参萬円
伍千円
伍千円
伍千円
伍千円
伍千円
壱萬円
伍千円
伍千円
伍千円
伍千円
伍千円
伍千円
伍千円
伍千円
伍千円
壱萬円
壱萬円

計　**弐拾参萬七千伍百円**

お礼コーナー ありがとうございました

※印は豊橋善意銀行を通して

▼**長坂　稔様**
ネギ寄贈※（珠藻荘・若菜荘・明日香）

▼**奥田　隆様**
玉葱寄贈※
（珠藻荘・あかね荘・明日香・若菜荘）

▼**大鳴戸後援会様**
大相撲番付表※（明日香）

▼**豊楽会様**
お菓子寄贈（全施設）

▼**鳥居弘子様**
洗剤寄贈（若菜荘）

▼**匿名様**
自動血圧計（若菜荘）

さわらびのわ リレーコラム Vol.5

特別養護老人ホームさわらび荘
施設長　太田　育郎

新入学や進級、就職や転勤など、この四月に自分をとりまく環境が大きく変わった方も多いことでしょう。大きく膨らむ夢や期待とともに、多くの心配や不安もまた自分の頭や心の中で蠢く日々。おそらく誰もが幾度か経験することではないでしょうか。

その昔、私は「転校少年」でした。札幌で生まれ、その後は公務員だった父親の仕事の関係で北海道内を転々としました。釧路、北見、旭川…。十六歳ぐらいまで同じところに二年以上住んだことはなく、早い時には半年で引っ越し。引っ越し回数は二桁になります。そのため、越境通学もしましたが結局小学校は四回、中学校は二回変わりました。

何度経験しても転校はとても辛いものでした。全くわからない土地の中ひとりで歩く通学路、まわりの子ども達の好奇の目、初めて行く学校の職員室の引き戸の感触…。次々と襲ってくる不安で心は押しつぶされそうでした。でも、そのような思いがあるからこそ、すっかり慣れた頃の歓びは絶大なのです。あの頃の想い出は今も心の中で輝いています。

だから私には故郷がたくさんあります。引っ越しや転校により友達との切ない別れもありました。でも、そのおかげで私はより多くの同世代の皆と出会い、共に学び遊ぶことができたのであり、また、より多くの先生や大人達との関わりの中で、それらの経験がその後の「私」に多大な影響を与えてくれたのだと思います。そして、さわらび会の一員として務める「その後の私」は、さらに多くの方々に支えられて、今ここの「地域人」です。

次回は福祉村病院　リハビリテーション部長榊原利夫さんです。

文字盤で伝える私の心

詩は私の生きる力。
指で字を選び、想いを詩に、職員と共に作りました。

詩　●柳瀬 久子さん
絵・文字●松下 美香さん（第二さわらび荘看護師）

みんなの力でみんなの幸せを

2008年6月1日発行　早蕨　第422号
（昭和62年2月21日第三種郵便物認可）

充実した医療と福祉

- 特別養護老人ホーム **さわらび荘** ☎(0532)54-3501
- 特別養護老人ホーム **第二さわらび荘**
- ケアハウス **カサ デ ローザ** ☎(0532)37-1209
- 軽費老人ホーム **若菜荘** ☎(0532)48-1138
- 障害者支援施設 **珠藻荘** ☎(0532)47-1050
- 知的障害者更生施設 **あかね荘** ☎(0532)48-2825
- **福祉村病院** ☎(0532)46-7511
- 障害福祉サービス事業所 **明日香** ☎(0532)46-6579
- 福祉村障害福祉サービス事業所 **しろがね** ☎(0532)48-1032
- **福祉コンビニ**（東雲町） ☎(0532)69-5666
- **第二福祉コンビニ弥生** ☎(0532)38-9090
- **さわらび会障害者居宅介護事業所 田原** ☎(0531)24-0722
- 福祉村老人保健施設 **ジュゲム** ☎(0532)46-7501
- **田原市障害者生活支援センター**（市委託） ☎(0531)45-3828

社会福祉法人 医療法人 **さわらび会**

編集責任者：武田和敏　印刷：共和印刷㈱　定価：100円

■**表紙作品：服部憲政**（明日香利用者）

編集後記

五月に入り、ミャンマーではサイクロン、中国四川省では大地震、相次いで自然災害により壊滅的な被害を受けた。両国とも当初国際支援に難色を示した。傍から見れば自然災害以上に大きな災害（人災）に思えてならない。今、最優先しなければならないことが捻じ曲げられ、本当に苦しんでいる方々のことなどそっちのけのような気がしてならない。いつ起こっても不思議ではないと言われている東海・東南海地震の防災対策強化地域内に住む私たちにとっては、今回の大災害は、人事とは思えない。不幸にしてお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、速やかに両国の復興がなされるよう期待したい。（武田）